

おおさか元気広場通信

令和元年 5月 10日

令和元年5月10日和泉市立北松尾小学校で企業プログラム（大阪府障がい者スポーツ協会）を活用したおおさか元気広場（放課後子ども教室）が開催されました。

いろいろな立場のおとなが関わる

北松尾小学校では、コーディネーターの方々が中心になって、放課後子ども教室を企画されています。

運営には、スタッフの方々だけでなく、教職員やPTAの方々など色々な立場のおとなが関わっています。参加している子どもたち、みんなが楽しめるように、関わるおとなが工夫して、運営されていました。

企業プログラムの活用で楽しく活動

今回は、大阪府障がい者スポーツ協会の協力を得て、出前プログラム「ボッチャ体験」を実施しました。

ボッチャって知ってる？どんなスポーツ？何を使うの？という話からはじまり、使用する球に触れ、投げたり、転がしたりすることから体験がスタートしました。

参加した児童約50名が8チームにわかれ、はじめはフラフープに向かって球を転がし、入った数を競いました。目標に向かって球を転がすことを通して、楽しみながら体験できました。

そして、いよいよ試合。試合は、白い球に向かって赤チームと青チームが球を転がし、白い球に近づけたチームが勝利というボッチャの公式ルールで行われました。子どもたちから「あー、おいしい！」「次、がんばろう」「よっしゃ！」といった声も上がり、笑顔でボッチャを楽しんでいました。

また、「あの青い球に当てたら、いい



んちゃう」「白い球の前において」などチームごとに作戦も考えはじめ、どの子どもも楽しく取り組んでいる様子でした。

体験の最後には、チーム戦の結果発表があり、障がい者スポーツ協会の方から、今日体験したボッチャは、2020年の東京パラリンピックでも行われる競技であることなどの話がありました。



[障がい者スポーツ協会の方の感想]

地域の方や、先生方が子どもたちに声かけや、指示をしてくださったので、体験の時間を多く作ることができました。

[コーディネーターの話]

障がいのある、なしに関係なく、色々な人と関わることができる人になってほしいから、今回ボッチャを体験してもらうことにしました。



[学校の教職員の話]

地域の方々が、学校に関わっていただくことで、子どもたちの表情が日に日に明るくなってきました。その様子を見て、教員としてできるところを協力したいと思い、関わっています。

[参加した子どもたちの感想]

- ・はじめてやったけど、とても楽しかった。またやりたい。
- ・球を投げるのは、難しかったけど、おもしろかった。

地域の方や教職員など、多くのおとなが、子どもたちの成長を願い、協働していることが伝わりました。

地域と学校が子どもたちを見守っている放課後子ども教室でした。